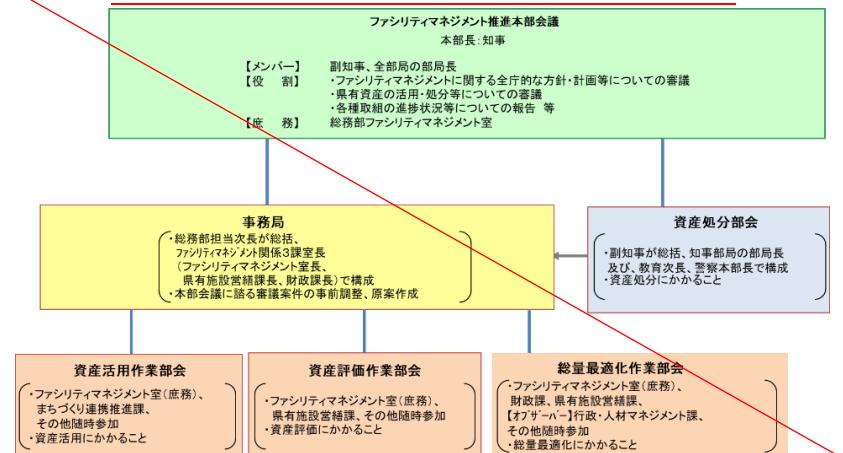


## 公共施設等総合管理計画（第4章）新旧対照表

新	旧	備考
<p><b>第4章 推進体制</b></p> <p><b>4. 1 推進組織</b></p> <p>本県では、平成25年4月に知事を本部長とするファシリティマネジメント推進本部を設置し、資産への本格的なファシリティマネジメント導入の推進を図ってきた。</p> <p><u>令和8年度からは、各施設所管部局において主体的に検討を進め、行財政改革推進会議において取組実績や進捗状況の確認を行う。また、3年毎に目標と取組実績との乖離状況を確認し、必要な対策を講じることとする。</u></p> <p>今後も、経営的な視点により、ファシリティマネジメントを推進し、効率的・効果的な行財政運営を進めていく。また公共施設等総合管理計画に取り組むことで、県財政の一層の健全化を目指す。</p> <p>(図削除)</p>	<p><b>第4章 推進体制</b></p> <p><b>4. 1 推進組織</b></p> <p>本県では、平成25年4月に知事を本部長とするファシリティマネジメント推進本部を設置し、資産への本格的なファシリティマネジメント導入の推進を図ってきた。</p> <p><u>(追加)</u></p> <p>今後も、経営的な視点により、ファシリティマネジメントを推進し、効率的・効果的な行財政運営を進めていく。また公共施設等総合管理計画に取り組むことで、県財政の一層の健全化を目指す。</p>	<p>推進体制見直し</p>

図表4.1 ファシリティマネジメント推進に係る組織図



## 公共施設等総合管理計画（第4章）新旧対照表

新	旧	備考
<p><b>4. 2 情報管理・共有方針</b></p> <p><b>(1) 公共施設</b></p> <p>本県では県有施設等の情報を蓄積し、全庁的な視点で適切に管理を行うために「ファシリティマネジメント支援システム」を<u>利用</u>している。公共施設がデータベース化され、各公共施設管理担当者が日常的にアクセス可能なシステムであり、今後もより効率的・効果的な整備計画等を立案、推進するため本システムを活用していく。</p> <p><u>(削除)</u></p>	<p><b>4. 2 情報管理・共有方針</b></p> <p><b>(1) 公共施設</b></p> <p>本県では県有施設等の情報を蓄積し、全庁的な視点で適切に管理を行うために「ファシリティマネジメント支援システム」を<u>開発</u> <u>七、平成26年より運用</u>している。公共施設がデータベース化され、各公共施設管理担当者が日常的にアクセス可能なシステムであり、今後もより効率的・効果的な整備計画等を立案、推進するため本システムを活用していく。</p> <p><u>また、県内市町村有資産等の情報を蓄積することにより、県内の公共資産データの共有化を支援し、県域でのファシリティマネジメントを推進する。</u></p>	<p>システム更新に伴い修正</p> <p>システム廃止のため削除</p>
<p><b>(2) インフラ施設</b></p> <p><b>①道路</b></p> <p>道路施設においては、<u>令和5年度に「奈良県道路施設共通データベースシステム」の運用を開始し、橋梁、トンネル、横断歩道橋等の諸元・補修履歴・点検履歴等を維持管理担当者が日常的に閲覧・更新できる環境を整備することで、維持管理業務の効率化を図っている。</u></p> <p><b>②下水道</b></p> <p>下水道施設においては、保有資産の管理に「AMDB システム (Asset Management Data Base System)」を活用している。システムでは健全度予測が可能で、これにより機器の更新及び部品交換の時期を判定し、資産の長寿命化、予算の平準化及びコスト縮減を図ることで、計画的・効率的に事業を実施していく。</p>	<p><b>(2) インフラ施設</b></p> <p><b>①道路</b></p> <p>道路施設においては、<u>平成15・16年度にトンネル・歩道橋・ロックシェッド等を対象とした「奈良県道路施設管理システム」、平成21年度に橋梁を対象とした「奈良県橋梁マネジメントシステム」を開発し、諸元・補修履歴・点検履歴等を記録、維持管理担当者が日常的に閲覧・更新できるデータベースとすることで、維持管理業務の効率化を図っている。</u></p> <p><b>②下水道</b></p> <p>下水道施設においては、保有資産の管理に「AMDB システム (Asset Management Data Base System)」を活用している。システムでは健全度予測が可能で、これにより機器の更新及び部品交換の時期を判定し、資産の長寿命化、予算の平準化及びコスト縮減を図ることで、計画的・効率的に事業を実施していく。</p>	時点修正

## 公共施設等総合管理計画（第4章）新旧対照表

新	旧	備考
<p><b>③公園</b></p> <p>都市公園においては、公園施設の更新・修繕計画を効率的・効果的に行うため、公園長寿命化計画、公園台帳(公園施設の位置情報)、図面、公園施設の管理履歴等をデータで管理し、適宜情報更新を行っている。</p> <p><u>(削除)</u></p>	<p><b>③公園</b></p> <p>都市公園においては、公園施設の更新・修繕計画を効率的・効果的に行うため、公園長寿命化計画、公園台帳(公園施設の位置情報)、図面、公園施設の管理履歴等をデータで管理し、適宜情報更新を行っている。</p>	
<p><b>④土地改良施設</b></p> <p>農業水利施設の機能診断調査結果やため池の機能診断結果を国及び県・市町村等が会員となり利用している「農地地図情報システム」に入力し、情報の共有化を図るとともに、農地情報と一括に管理することにより農地マネジメントを踏まえた長寿命化対策に資する。</p>	<p><b>④上水道</b></p> <p><u>上水道では、施設の適切な維持管理に必要な情報を蓄積し、共有するために「水道管理支援システム」を導入している。システムは地形図と施設情報をリンクし、図面、事故履歴、事故対処方法及び補修履歴等をデータベース化した上で、維持管理担当者が日常的に閲覧・更新可能であり、本システムを活用し、漏水事故等への迅速な対応及び効率的な施設の維持管理及び修繕等を行っていく。</u></p> <p><b>⑤土地改良施設</b></p> <p>農業水利施設の機能診断調査結果やため池の機能診断結果を国及び県・市町村等が会員となり利用している「農地地図情報システム」に入力し、情報の共有化を図るとともに、農地情報と一括に管理することにより農地マネジメントを踏まえた長寿命化対策に資する。</p>	<p>上水道施設は 令和7年4月 1日から奈良 県広域水道企 業団に承継さ れたため削除</p>

公共施設等総合管理計画（第4章）新旧対照表

新	旧	備考
<p><b>4. 3 他団体との連携</b></p> <p><b>(1) 公共施設</b></p> <p><b>①市町村との連携</b></p> <p>公共施設の最適利用について、各市町村の検討状況は様々であるが、県は各市町村に対し、公共施設のデータ分析などの技術支援や、公共施設のまちづくりへの活用に関する連携協定による技術支援、財政支援等、各市町村の検討の進度に合わせた支援を行っている。</p> <p>本県では、行政サービスの維持・向上を図るため、県と市町村の役割分担を見直し、県・市町村の持つ行政資源を県全体として有効活用し、地域の実情に応じた最適な地方行政のあり方を目指す「奈良モデル」の推進に取り組んでいる。県内の公共施設においても、県<u>及び</u>市町村間の連携により、共同管理、共同利用、<u>共同設置</u>等を<u>推進する</u>。</p> <p><u>(削除)</u></p>	<p><b>4. 3 他団体との連携</b></p> <p><b>(1) 公共施設</b></p> <p><b>①市町村との連携</b></p> <p>公共施設の最適利用について、各市町村の検討状況は様々であるが、県は各市町村に対し、公共施設のデータ分析などの技術支援や、公共施設のまちづくりへの活用に関する連携協定による技術支援、財政支援等、各市町村の検討の進度に合わせた支援を行っている。</p> <p>本県では、行政サービスの維持・向上を図るため、県と市町村の役割分担を見直し、県・市町村の持つ行政資源を県全体として有効活用し、地域の実情に応じた最適な地方行政のあり方を目指す「奈良モデル」の推進に取り組んでいる。県内の公共施設においても、県・市町村間の連携を<u>推進し</u>、共同管理、共同利用、<u>技術支援</u>等を<u>行うことによる事業推進スキーム</u>（「奈良モデル」によるファシリティマネジメントの推進）の構築を図る。</p> <p><u>なお、市町村における公共施設等が所在するエリアの将来人口の動向を見通したとき、人口と施設の配置にアンバランスが生じる</u>  <u>おそれがあるため、県において、市町村の小地域(字)単位の地域の</u>  <u>将来人口推計を行い、施設等の配置状況について分析できる「奈良</u>  <u>県地域別将来人口推計システム」を整備し、市町村でも利用できる</u>  <u>ようにしている。</u></p> <p><u>これにより、地域のまちづくりや市町村における施設の最適利用を促進し、県域でのファシリティマネジメントを推進する。</u></p>	システム廃止のため削除

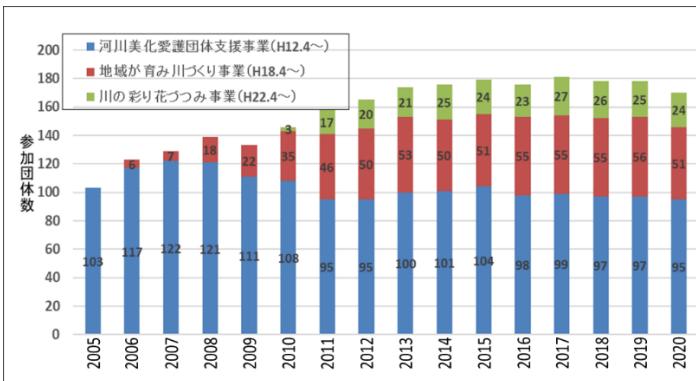
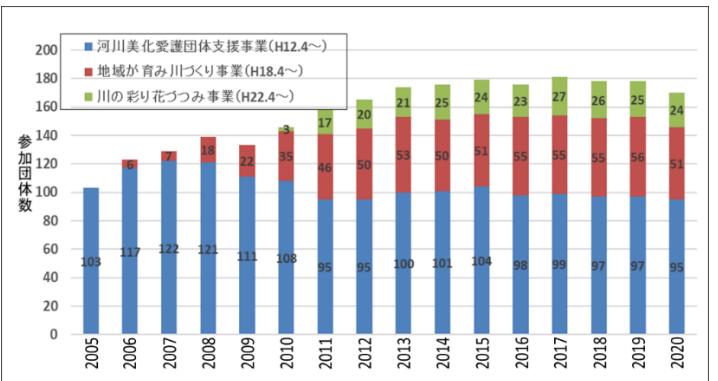
## 公共施設等総合管理計画（第4章） 新旧対照表

新	旧	備考
<p><b>②国との連携</b></p> <p>地域の国公有財産については「国と地方公共団体が連携した地域の国公有財産の最適利用について」（平成26年8月29日総務省第149号）において、国と地方公共団体の連携の必要性について通知されたところであるが、本県では、国公有財産の最適利用に向けて、一体的に検討を始めたところである。今後も、国公有財産を県全体として有効活用することを図り、県域でのファシリティマネジメントの推進に取り組む。また、市町村の行うまちづくりの検討においても、市町村有の公共施設の最適利用だけでなく、県や国のある公共施設の共同利用・複合化等も視野に入れ検討を行う。</p>	<p><b>②国との連携</b></p> <p>地域の国公有財産については「国と地方公共団体が連携した地域の国公有財産の最適利用について」（平成26年8月29日総務省第149号）において、国と地方公共団体の連携の必要性について通知されたところであるが、本県では、国公有財産の最適利用に向けて、一体的に検討を始めたところである。今後も、国公有財産を県全体として有効活用することを図り、県域でのファシリティマネジメントの推進に取り組む。また、市町村の行うまちづくりの検討においても、市町村有の公共施設の最適利用だけでなく、県や国のある公共施設の共同利用・複合化等も視野に入れ検討を行う。</p>	

## 公共施設等総合管理計画（第4章） 新旧対照表

新	旧	備考
<p><b>(2) インフラ施設</b></p> <p><b>①道路施設の維持管理における連携</b></p> <p>県が管理する道路において、地域の住民や企業との協働による快適な道路空間の維持・向上に向けての取組として、「みんなで・守ロード」事業を実施している。</p> <p>引き続き、これら県民協働の取組について、参加団体の拡充のため事業の周知を行っていくとともに、市町村との連携を図る。</p> <p>活動風景</p> 	<p><b>(2) インフラ施設</b></p> <p><b>①道路施設の維持管理における連携</b></p> <p>県が管理する道路において、地域の住民や企業との協働による快適な道路空間の維持・向上に向けての取組として、「みんなで・守ロード」事業を実施している。</p> <p>引き続き、これら県民協働の取組について、参加団体の拡充のため事業の周知を行っていくとともに、市町村との連携を図る。</p> <p>活動風景</p> 	

## 公共施設等総合管理計画（第4章）新旧対照表

新	旧	備考																																																																																																																																																																								
<p><b>②河川施設の維持管理における連携</b></p> <p>県が管理する河川において、平成16年度より県民との協働による清掃・草刈・花の植栽等に取り組み、良好な河川空間の創出・確保を目指している。県民との協働は着実に根付き、広がりを見せて いる（図表4. 2参照）。</p> <p>引き続き、これら県民協働の取組について、参加団体等との交流等を継続していく仕組みづくりやフォローアップ体制の整備・充実に取り組む。</p> <p>図表4. 2 参加団体の推移</p>  <table border="1"> <caption>図表4. 2 参加団体の推移</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>河川美化愛護団体支援事業(H12.4～)</th> <th>地域が育む川づくり事業(H18.4～)</th> <th>川の彩り花づみ事業(H22.4～)</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2005</td><td>103</td><td>0</td><td>0</td><td>103</td></tr> <tr><td>2006</td><td>117</td><td>0</td><td>0</td><td>117</td></tr> <tr><td>2007</td><td>122</td><td>0</td><td>0</td><td>122</td></tr> <tr><td>2008</td><td>121</td><td>18</td><td>0</td><td>139</td></tr> <tr><td>2009</td><td>111</td><td>22</td><td>0</td><td>133</td></tr> <tr><td>2010</td><td>108</td><td>35</td><td>3</td><td>146</td></tr> <tr><td>2011</td><td>95</td><td>46</td><td>17</td><td>158</td></tr> <tr><td>2012</td><td>95</td><td>50</td><td>20</td><td>165</td></tr> <tr><td>2013</td><td>100</td><td>53</td><td>21</td><td>174</td></tr> <tr><td>2014</td><td>101</td><td>50</td><td>25</td><td>176</td></tr> <tr><td>2015</td><td>104</td><td>51</td><td>24</td><td>180</td></tr> <tr><td>2016</td><td>98</td><td>55</td><td>23</td><td>176</td></tr> <tr><td>2017</td><td>99</td><td>55</td><td>27</td><td>177</td></tr> <tr><td>2018</td><td>97</td><td>55</td><td>26</td><td>178</td></tr> <tr><td>2019</td><td>97</td><td>56</td><td>25</td><td>178</td></tr> <tr><td>2020</td><td>95</td><td>51</td><td>24</td><td>170</td></tr> </tbody> </table> <p>活動風景</p>  <p>河川愛護団体支援事業 (清掃)</p> <p>地域が育む川づくり事業 (草刈)</p> <p>川の彩り花づみ事業 (花の植栽)</p> <p>図表4. 2 参加団体の推移</p>  <table border="1"> <caption>図表4. 2 参加団体の推移</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>河川美化愛護団体支援事業(H12.4～)</th> <th>地域が育む川づくり事業(H18.4～)</th> <th>川の彩り花づみ事業(H22.4～)</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2005</td><td>103</td><td>0</td><td>0</td><td>103</td></tr> <tr><td>2006</td><td>117</td><td>0</td><td>0</td><td>117</td></tr> <tr><td>2007</td><td>122</td><td>0</td><td>0</td><td>122</td></tr> <tr><td>2008</td><td>121</td><td>18</td><td>0</td><td>139</td></tr> <tr><td>2009</td><td>111</td><td>22</td><td>0</td><td>133</td></tr> <tr><td>2010</td><td>108</td><td>35</td><td>3</td><td>146</td></tr> <tr><td>2011</td><td>95</td><td>46</td><td>17</td><td>158</td></tr> <tr><td>2012</td><td>95</td><td>50</td><td>20</td><td>165</td></tr> <tr><td>2013</td><td>100</td><td>53</td><td>21</td><td>174</td></tr> <tr><td>2014</td><td>101</td><td>50</td><td>25</td><td>176</td></tr> <tr><td>2015</td><td>104</td><td>51</td><td>24</td><td>180</td></tr> <tr><td>2016</td><td>98</td><td>55</td><td>23</td><td>176</td></tr> <tr><td>2017</td><td>99</td><td>55</td><td>27</td><td>177</td></tr> <tr><td>2018</td><td>97</td><td>55</td><td>26</td><td>178</td></tr> <tr><td>2019</td><td>97</td><td>56</td><td>25</td><td>178</td></tr> <tr><td>2020</td><td>95</td><td>51</td><td>24</td><td>170</td></tr> </tbody> </table> <p>活動風景</p>  <p>河川愛護団体支援事業 (清掃)</p> <p>地域が育む川づくり事業 (草刈)</p> <p>川の彩り花づみ事業 (花の植栽)</p>	年	河川美化愛護団体支援事業(H12.4～)	地域が育む川づくり事業(H18.4～)	川の彩り花づみ事業(H22.4～)	合計	2005	103	0	0	103	2006	117	0	0	117	2007	122	0	0	122	2008	121	18	0	139	2009	111	22	0	133	2010	108	35	3	146	2011	95	46	17	158	2012	95	50	20	165	2013	100	53	21	174	2014	101	50	25	176	2015	104	51	24	180	2016	98	55	23	176	2017	99	55	27	177	2018	97	55	26	178	2019	97	56	25	178	2020	95	51	24	170	年	河川美化愛護団体支援事業(H12.4～)	地域が育む川づくり事業(H18.4～)	川の彩り花づみ事業(H22.4～)	合計	2005	103	0	0	103	2006	117	0	0	117	2007	122	0	0	122	2008	121	18	0	139	2009	111	22	0	133	2010	108	35	3	146	2011	95	46	17	158	2012	95	50	20	165	2013	100	53	21	174	2014	101	50	25	176	2015	104	51	24	180	2016	98	55	23	176	2017	99	55	27	177	2018	97	55	26	178	2019	97	56	25	178	2020	95	51	24	170
年	河川美化愛護団体支援事業(H12.4～)	地域が育む川づくり事業(H18.4～)	川の彩り花づみ事業(H22.4～)	合計																																																																																																																																																																						
2005	103	0	0	103																																																																																																																																																																						
2006	117	0	0	117																																																																																																																																																																						
2007	122	0	0	122																																																																																																																																																																						
2008	121	18	0	139																																																																																																																																																																						
2009	111	22	0	133																																																																																																																																																																						
2010	108	35	3	146																																																																																																																																																																						
2011	95	46	17	158																																																																																																																																																																						
2012	95	50	20	165																																																																																																																																																																						
2013	100	53	21	174																																																																																																																																																																						
2014	101	50	25	176																																																																																																																																																																						
2015	104	51	24	180																																																																																																																																																																						
2016	98	55	23	176																																																																																																																																																																						
2017	99	55	27	177																																																																																																																																																																						
2018	97	55	26	178																																																																																																																																																																						
2019	97	56	25	178																																																																																																																																																																						
2020	95	51	24	170																																																																																																																																																																						
年	河川美化愛護団体支援事業(H12.4～)	地域が育む川づくり事業(H18.4～)	川の彩り花づみ事業(H22.4～)	合計																																																																																																																																																																						
2005	103	0	0	103																																																																																																																																																																						
2006	117	0	0	117																																																																																																																																																																						
2007	122	0	0	122																																																																																																																																																																						
2008	121	18	0	139																																																																																																																																																																						
2009	111	22	0	133																																																																																																																																																																						
2010	108	35	3	146																																																																																																																																																																						
2011	95	46	17	158																																																																																																																																																																						
2012	95	50	20	165																																																																																																																																																																						
2013	100	53	21	174																																																																																																																																																																						
2014	101	50	25	176																																																																																																																																																																						
2015	104	51	24	180																																																																																																																																																																						
2016	98	55	23	176																																																																																																																																																																						
2017	99	55	27	177																																																																																																																																																																						
2018	97	55	26	178																																																																																																																																																																						
2019	97	56	25	178																																																																																																																																																																						
2020	95	51	24	170																																																																																																																																																																						

## 公共施設等総合管理計画（第4章）新旧対照表

新	旧	備考
<p><b>③道路施設の老朽化対策における連携</b></p> <p>道路施設の老朽化対策については、技術支援を求める市町村に対して、県が点検、設計、工事の業務を受託し支援する「奈良モデル」を推進し、市町村の技術力の向上とメンテナンス業務の促進を図る。また、県全体の道路施設の老朽化対策を推進するため、県内の全ての道路管理者（国、県、市町村、西日本高速道路(株)）で構成する「奈良県道路メンテナンス会議」の場を通して連携を図る。</p> <p><u>(削除)</u></p>	<p><b>③道路施設の老朽化対策における連携</b></p> <p>道路施設の老朽化対策については、技術支援を求める市町村に対して、県が点検、設計、工事の業務を受託し支援する「奈良モデル」を推進し、市町村の技術力の向上とメンテナンス業務の促進を図る。また、県全体の道路施設の老朽化対策を推進するため、県内の全ての道路管理者（国、県、市町村、西日本高速道路(株)）で構成する「奈良県道路メンテナンス会議」の場を通して連携を図る。</p>	
<p><b>④受水市町村との連携</b></p> <p><u>県内の水道事業体においては、水道事業を取り巻く共通の課題である水需要の減少や施設の老朽化などの問題に対処するため、県と市町村が連携し、県営水道と市町村水道が有する水源、施設、人材、業務などの水道資産を県営水道や簡易水道を含めた県内水道全体（県域水道）で効率的に活用する「県域水道フアシリティマネジメント」を進めている。</u></p> <p><u>また、上水道エリアでは、市町村の浄水場の統廃合や送配水施設の効率化などにより、県域全体での施設最適化・強靭化を目指す「県域水道一体化」の協議を、県・関係市町村等で進めしており、令和3年1月25日には「水道事業等の統合に関する覚書」を締結し、令和6年度までの企業団設立に向け、具体的な検討を進めている。</u></p> <p><b>④土地改良施設における他団体との連携</b></p> <p><u>土地改良施設については、施設の円滑かつ適切な維持管理・更新について検討することを目的として、近畿農政局、奈良県、奈良県土地改良事業団体連合会、土地改良区で構成する「奈良県管理運営体制強化委員会」を設置している。</u></p>	<p><b>④受水市町村との連携</b></p> <p><u>県内の水道事業体においては、水道事業を取り巻く共通の課題である水需要の減少や施設の老朽化などの問題に対処するため、県と市町村が連携し、県営水道と市町村水道が有する水源、施設、人材、業務などの水道資産を県営水道や簡易水道を含めた県内水道全体（県域水道）で効率的に活用する「県域水道フアシリティマネジメント」を進めている。</u></p> <p><u>また、上水道エリアでは、市町村の浄水場の統廃合や送配水施設の効率化などにより、県域全体での施設最適化・強靭化を目指す「県域水道一体化」の協議を、県・関係市町村等で進めしており、令和3年1月25日には「水道事業等の統合に関する覚書」を締結し、令和6年度までの企業団設立に向け、具体的な検討を進めている。</u></p> <p><b>⑤土地改良施設における他団体との連携</b></p> <p><u>吉野川分水施設については、受益地の営農状況や担い手の状況、農業用水の利用状況などを踏まえ、施設の維持管理・更新のあり方について検討するとともに農業用水及び施設の有効利用も踏まえ、今後の受益農地の利用について検討することを目的として、近畿農政局、奈良県、奈良県土地改良事業団体連合会、大和平野土地改良区で構成する「吉野川分水施設アセットマネジメント検討会議」を平成25年3月に設置している。</u></p>	<p>上水道施設は 令和7年4月 1日から奈良 県広域水道企 業団に承継さ れたため削除</p>

公共施設等総合管理計画（第4章） 新旧対照表